

パトロール隊長 山口孝之 退任あいさつ

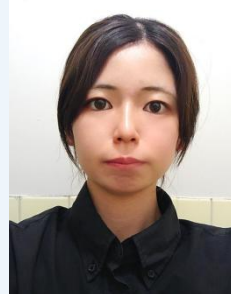
地区の皆様、隊員及びご家族のご理解とご協力のもと、1年間の安全パトロール活動を行っていただきましたことに感謝申し上げます。さて、パト隊では、犯罪、事件、事故の未然防止の自主活動を行い、安全で住みよい社会づくりに寄与することを目的として活動をしています。一方、私たちの防災や減災対策・訓練への取り組みでは、まだまだ十分なレベルにあるとは言えないのが実情だと思います。防犯も防災も、常日頃から私たち自身ができることを考え、実際に行動を起こすことが何よりも大切であると考えます。そして、200名超のパト隊には、隊員のさらなる意識深化・知識向上・行動力を期待しています。備えあれば憂いなし。

**女性部部長 深谷典子 退任あいさつ**

本年度は、コロナ禍も明け従来に近い形で地区行事が行われました。女性部も微力ながら色々な行事に参加させていただくことができました。特に4年ぶりに開催された「小垣江地区盆踊り大会」では、女性部も六月から練習を始め、青年団、地区の方々に助けていただきながら参加できました。一つの大きな輪の中で踊る笑顔一杯の子供たちや活き活きとした地区の方々の姿に、小垣江という町の温かさ、素朴さをつくづく感じました。来年度もこのような行事が行われることを心から願います。女性部20名と共に地区活動に携わる中、いろいろな方々の温かい気持ちをいただき大変感謝しています。一年間、本当にありがとうございました。今後も女性部の活動へのご支援をよろしくお願いいたします。

**青年団長 石川遥乃 退任あいさつ**

情勢のため中止を余儀なくされる行事が多くあった3年間を乗り越え、今年度はたくさんの行事を開催することが出来た1年でした。盆踊りや敬老会、青年祭など、4年ぶりの行事であるにもかかわらず、たくさんの方に参加していただきました。私自身が経験したことのない行事を運営することに不安を感じていましたが、地域の方々のご理解とご協力のおかげで無事成功させることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。今後も小垣江青年団の団員として、地域行事を通して小垣江を盛り上げていけるよう尽力します。1年間ありがとうございました。

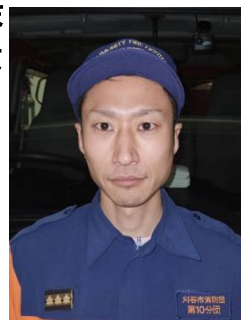
**子供会会長 城野清香 退任あいさつ**

令和4年、5年と子供会と地域の方と関わってまいりました。コロナ禍後、色々子育て世代の生活の変化などを踏まえ、今の子供会の理事の方々と一緒に今後の子供会について整理し、地域の方と何度も話し合いを重ねました。その結果、令和5年度をもちまして、小垣江の地域の行事の運営から退くことになりました。これからは、各組の下部組織として、子供会を引き続き運営していくこととなります。来年度運営を継続する組は、向組、向北組、下・中組、荒井組、向東組、犬ヶ坪組、新田東組の7団体です。お祭りを中心に活動していく予定です。また、子供会が閉鎖された組も、今年度は、お祭りのみ復活された組もありました。お祭りのみ参加の組も各組の地区委員さんや組長さんに相談して頂き、復活していただいても構いませんので、是非、参加していただけたら幸いです。子供の減少や共働き世帯が増え、子供会加入者が減っているのは、事実です。その辺りを考慮して、依佐美中学校のボランティアをお願いしたり、ドッジボール大会も廃止になったので、今までの子供会の活動内容も変化。保護者さんが行う役員も、会議もなるべく軽減しLINEなどを使って連絡を取り、誰でも出来るように単純化し、楽しく子供たちと地域の方と交流する場として、変化しています。今後は、お祭りを中心として、今の時代にあった子供会を作りたいと感じております。最後に、この時代の変化と、私達の思いを共有して頂き、何度も話し合いの時間を作っていただき、今回の決断を受理して頂いた地区長さん、公民館長さんには、本当に感謝しております。本当にありがとうございました。時代の変化を受け止めながら、伝統を残しつつこれからの時代にあわせた、小垣江の地域活性化を心より願っております。



消防団第10分団 分団長 長澤寛季 退任あいさつ

小垣江本郷地区消防団、第10分団長を2年間務め今年度で退任・退団いたします、長澤です。分団長在任中はコロナ禍が終わり、操法大会も地区の行事も「今まで通り」に戻り、最後まで楽しく活動できました。消防団員として11年間、防災を中心に地区と関わり、小垣江のことをより知ることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。消防団を取り巻く環境は、活動に理解が得られず、団員の確保が厳しい地区が多い中、小垣江では団員の活動に対し、暖かい言葉をかけていただけたことが多く、気持ちよく消防団活動を行うことができ、感謝しています。今後も地区の一員として消防団活動へ協力を続けて参りますが、引き続き消防団へのご理解・ご支援の程宜しくお願い致します。



読んでおくれん

「小垣江の歴史・文化・史跡探訪」

シリーズ 100

小垣江ゆかりの人物

その4

内藤 元久

「三河知名人士録」より

16、「清水勘之助」 歌舞伎俳優。明治26年11月11日依佐美村大字小垣江の清水勘五郎の二男として生れ、12才の時田舎芝居の寺子屋の子役を勤めたのが初舞台で、17才の時名古屋市に出で佐圓治の弟子となった。25才の時上京して守田勘弥の弟子となり、弥助と改名して東都劇場に出演に至り、32才にして名代となり坂東嘉好と改めたが、昭和7年6月師勘弥没後は独立して勘五郎と改称し、坂東市太郎と共に一座を組織して居る。長兄保太郎氏は郷里小垣江に農を業とせしが先年病没し、姪に養嗣子を迎えて居ると云う。

17、「清水桂次郎」 教育者。慶應2年12月依佐美村大字小垣江に生る、幼児父を亡い祖母と母に養わる、小学校卒業後寺僧に就き漢学を専攻し明治15年17才にして教職に就き25年5月授業性心得、28年准訓導に任ぜらる、30才の時家庭の中堅たる祖母が中風症に罹り治療に手を尽すも快癒せず起居不自由となりしに加えて32歳の時には母が眼病を患い遂に盲目となり、3年後には不自由の祖母も眼病の為失明するに至った。豊かならぬ家に二人の病人を擁しながら小垣江小学校に校長を授けて教職を続け40余年間に九代の校長に仕え終始一貫孜々として勉強し大正13年眼を患いて退任するまで同一小学校に40余年間を勤続し一方家庭にありては病人を有しこれが治療に少からず薬価を支出しながら先代よりの耕作地を節約により蓄えし金をもって買い増しせし如き現代人の亀鑑とするに足る。



18、「平野徳治郎」 池ノ坊大日本総華督。明治8年9月依佐美村大字小垣江に生る、青年時代より華道に興味を有し、農事の傍ら研究永年に及び今や門弟数百人に及び現に池ノ坊三河支部の役員として重きを為して居るまでには固より、天稟の才能は勿論、人知らぬ苦心努力の之れに伴はずんば如何でか此の如きを得ん。門人相謀りて寿碑を邸内に建て昭和9年3月盛大なる除幕式を行つたが氏の徳は其碑と共に苔蒸してなお永久に頌へらるるであらう。

“シリーズ100” 終り。

長い間ご愛読頂きました「読んでおくれん」は、今号をもちまして最終回とさせていただきます。この連載の読者の皆様、ならびに長年にわたり執筆頂いた方々に感謝致します。なお、執筆・編集に中心となりご活躍頂いた、内藤元久様、石川四十美様へのインタビュー記事を5月発行の地区だよりに掲載予定です。

3月中旬

～4月中旬

の予定

・ 4月10日(水)

・ 4月10日(水)

春の交通安全一斉大監視・・・見守り隊・パト隊・地区

招魂祭(神明神社にて)・・・地区・氏子総代